

消 防 秋 田

平成19年度秋田県総合防災訓練 都市・産業基盤災害訓練を中心に秋田市で実施

災害基本法及び秋田県・秋田市の地域防災計画に基づき、地震や火災等を想定した訓練を行うことにより、災害の予防と防災活動の迅速・的確化、防災意識の高揚を図ることを目的として次により行われた。

- 一、訓練月日
平成十九年八月三十一日(金)
午前八時三十分から午後〇時三十分まで
- 二、訓練地
秋田市中心地区(山王、八橋周辺)
秋田市北部地区(秋田港周辺)
- 三、訓練想定
平成十九年八月三十一日午前七時〇〇分、秋田市沖の日本海を震源とする強い地震が発生、秋田市では震度6強を記録。地震が想定
- 四、被害想定
・秋田市では中心部で多くの建物が倒壊、多数の死傷者が出るとともに、市内数箇所で大規模な火災が発生。
・ライフライン施設(通信・電力・水道・ガス等)にも大きな被害。
・秋田港に停泊中のタンカーの積荷の油が流出するとともに石油コンビナートの屋外貯蔵タンクが損傷し、洩れた油に引火し火災が発生。
- 五、災害対策本部設置
知事・秋田市市長は、災害対策本部を設置、関係機関に出勤要請するとともに住民の避難誘導、火災の延焼防止、ライフ

題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp

印 刷
〒010-0951
秋田山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

平成十九年度全国統一防火標語
『火は見てる
あなたが離れる
その時を』

ライン復旧等の対応をした。

六、訓練参加者
秋田県警航空隊、陸上自衛隊第21普通科連隊、航空自衛隊秋田救難隊、秋田海上保安部、秋田市消防本部を含む一七九機関・団体から五万人

七、主な訓練
・秋田県庁舎からの出火により、逃げ遅れた職員の救出のため、航空自衛隊秋田救難隊はヘリコプターによる救出活動を行った。

・石油コンビナートのパイプラインが破損して大量の油が海上に漏れ、オイルフェンスを展開するとともに油の除去に当たった。

また、秋田海上保安部は、流出油の拡散と船舶火災防御のため巡視船、作業船からの放水活動を行った。
・秋田港の船舶火災で船外に脱出した乗組員救出のため、航空自衛隊秋田救難隊はヘリコプターによる救助を行った。

・地震により避難した市民に対し応急給食を行うため、航空自衛隊第33警戒隊、秋田市赤十字奉仕団等が協力して炊き出しを実施した。

八、訓練の統監である寺田知事らが各訓練を視察して回った後、秋田湾産業新拠点での閉会式では全体の講評があった。



県庁舎からの出火、ヘリコプターによる救出活動



オイルフェンスの展張と船舶火災の防御の放水活動



石油コンビナートでの油流出事故に対応



横転したバスから乗客を救出するレスキュー隊



航空自衛隊秋田救難隊はヘリコプターによる救出活動



自衛隊、秋田市赤十字奉仕団等が協力して炊き出しを実施



船舶火災で船外に脱出した乗組員の救出活動



第七十九回秋田県殉職消防職団員慰霊祭は、八月二十八日(火)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会の主催で執り行われた。祭場は、緑深く静寂にまつまれた公園の一角に消防職・団員四十四柱をお

殉職消防職団員慰霊祭

八月二十八日 秋田市千秋公園 於

祀りし、ご遺族、ご来賓、消防協会役員など関係者四十七名が厳粛かつ制服に威儀を正して参列した。
祭事は、開会のことば、修祓などの神事、中泉協会長による祭文奏上、西村秋田県副知事の慰霊のことば、メッセージ報告のあと、祭主中泉会長、遺族代表、ご来賓が諸霊の冥福を祈って玉串を奉奠して閉じた。
終了後、参列者は、同公園内にある弥高神社に会場を移しての昼食会に出席し、和やかなうちに納会となった。
この慰霊祭に先立ち、招魂碑の清掃が八月十七日(金)に消防学校第六十一期初任教育学生によって情操教育の一環として行われた。毎年このことが、ご奉仕をありがたくお受けしたい。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

- トーハツ小型動力ポンプ
 - モリタ自動車ポンプ
 - ジェットホース
 - 消防被服全般
 - 火災報知器各種
 - 消火器各種
- (営業種目)



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

市町村消防の 広域化を目指して

― 第一回秋田県消防広域化推進懇談会開催 ―



副知事あいさつ

市町村消防の広域化については、平成十八年六月十四日に消防組織法が改正されて広域化に向けての基本的理念等が整備されたのを受けて、同年七月十二日には消防庁長官の「都道府県は、市町村消防広域化の推進計画を平成十九年度内に定め、市町村では平成二十四年度までの広域化を実現すること。」という基本指針が出されている。

秋田県は、平成六年度からの小規模消防本部の広域化の推進によって、十七本部から十三本部への集約が図られたところであるが、全県市町村の将来人口の推移等の現状を鑑みて、なお一層の推進によって住民サービスの向上、消防体制の効率化・基盤強化の期待が見込まれることなどから、本年度の推進計画の策定に当たって幅広く意見を聴くとともに助言・協力を得るため、「秋田県消防広域化推進懇談会」(委員二十名)を設置した。

その第一回懇談会が八月二十三日(木)午後一時から秋田県庁の秋田県議会大会議室で行われ、県から秋田県消防の現状と見通し、県の消防広域化推進計画の策定についての考えが示され、県内市町村長等の委員からは活発な意見が出された。

今後、この懇談会の下部組織である全県消防長などで構成する「幹事会」を四回ほど開催して計画原案の検討を行い、明年二月ごろに開かれる懇談会で推進計画を決定する予定としている。

消防団活性化検討会議が発足

― わがまちの消防団活性化支援について議論 ―

本年度に秋田県消防協会が県からの委託を受けて実施する「わがまちの消防団活性化支援事業」の検討組織となる消防団活性化検討会議が発足し、第一回の会議が八月二十日(月)に秋田市の「ルポールみずほ」で行われた。

会議に先立ち、中泉会長のあいさつ、県総合防災課からこの事業を立ち上げるに至った経緯と議論の前提となる秋田県消防の現状把握のための提出資料の説明が行われたのち、検討会議の座長に選ばれた秋田市消防本部の土館隆司消防次長の進行によって会議が進められた。

会議では、メインテーマを「消防団活性化・消防団入団促進に向けた新たな取り組み」とし、①女性消防団員の熊本大会への

派遣助成 ②消防団活性化大会の開催 ③県内消防団員三、〇〇〇人へのアンケート調査を行うことや、全体的なスケジュールでは第二回会議を十二月とし、最終の第三回会議を三月に行つて、報告書を取りまとめることを確認した。

このほか、活性化支援モデル事業への助成、消防団・事業所の協力体制を構築するため事業所の意識調査を実施することとしている。

検討会議の十一名のメンバーは次のとおりである。



中泉会長あいさつ

秋田市消防本部 消防次長

土館 隆 司

仙北市連合消防団 団長

大石 正文

鹿角広域行政組合消防本部警防予防課 主査

金澤 光 一

にかほ市消防本部 消防次長

下居 和 夫

潟上市役所生活環境課 主査

佐々木 渉

横手市役所総務課 副主査

佐藤 孝 之

北秋田市消防団 団員

高頭 義 幸

三種町消防団本部分団女性班 班長

金子 咲 子

秋田市消防団 団員

松本 恵

田中電気工業株式会社代表取締役(大曲市)

田中 十九也

株式会社佐藤建設代表取締役(羽後町)

佐藤 清 次

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32) 3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トータツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

森田ポンプ | ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 | 消防被服一式
各種消火器 | 消防機一式

株式会社 協立 株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

新女性消防団員に聞く

「本年度九人入団した「にかほ市消防団」

全国の女性消防団員は、平成十八年十月一日現在、一四、九七六人で九十万団員の一・七％、女性消防団員を採用している消防団は、一、〇三四団で全団の四十一％と少ないが、年々少しながらも増加傾向にあることは喜ばしいことである。この傾向は、秋田県にも同様であり、昨年度の本県の女性消防団員は九十五人であったが、十九年度(七月一日現在)では一〇八人と人数でプラス十三人、伸び率十四％とこれも増加傾向にある。

女性消防団員は、火災予防の広報・救急救命講習の指導などの分野での活躍が見込まれており、今後とも入団を公募する県内の消防団が増えることが期待されている。



今回は、この四月に一举に九人の女性消防団を採用した「にかほ市女性消防団」の板垣団長 三浦由美子・須田典子の二人の団員に今後の抱負などを聞いた。

Q 女性消防団員を募集した基本的な考えは。

A 消防団への若年層の団員の確保が年々困難になっており、同時にサラリーマン化も進んでいる。消防団は災害に直接対処するだけでなく、高齢者や地域に対する火災予防活動をも重視せざるを得なくなってきた。こんな時に当たり、女性特有の優しさ、

きめ細かさを活かし、災害に強いまちづくりのための広報・予防活動、災害弱者対策等で能力を発揮していただきたく募集したところ九人の応募があり大変喜んでいる。

Q 応募するに至ったきっかけは。

A 募集を市の公報で見ても、主人がかつて団員であり消防への興味関心があったことに加え、団員の薦めなどもあり、地域の方への恩返しを何らかの形でしたいと思ひ応募した。幸いにして職場の理解も得られていたので、これから研鑽を積み、防火・防災の啓発活動、高齢者への災害時の支援などの活動を行いたい。

Q 今回入団した九人の職業、年齢、自宅と本部と職場の距離関係はどうなっているか。

A 職業は主婦が一人、自営業二人、あとの六人が会社員となっている。年齢は二十代が一人、三十代が五人、四十代が三人と社会経験の豊富な方々ばかりだ。自宅・本部・職場間の距離は災害時や訓練・研修時などあまり遠いとかなかなか難しいこともあるが全員のそれぞれの距離が車で十分以内と条件は非常に恵まれている。

Q 配属や具体の活動等はどうなっているか。

A 消防団・署が行う行事への参加、地域の防火・防災・救命訓練などの啓発指導、火災予防・防災に関する広報、災害時の後方支援活動などをお願いしている。これらの業務は消防本部で企画立案していることから全員の配属先は消防本部としている。採用早々ではあったが支部の訓練大会では女性団員に大会の運営、進行などを行ってもらい、大変好評だった。

また処遇は、年報酬・出動手当の支給、制服の貸与、公務災害補償、退職報償金支給などがある。

秋田県消防協会

第二回役員会開催

八月二十八日
秋田市弥高神社 於

秋田県消防協会第二回役員会が、八月二十八日(火)平成十九年度殉職消防職・団員慰霊祭後の午後一時から秋田市千秋公園内の弥高神社において、理事十二名、監事三名が出席して開催された。

この役員会は、法人の寄附行為上は理事会として位置づけられるもので、中泉協会長のあいさつのもと、協議事項に入り次の事項が決定された。

- 一 第六十回日本消防協会定例表彰は、ほぼ秋田県割当数内の支部上申であったが、「まとい」は、三種町、大仙市の二箇所からの上申があり、三種町が受章するまで秋田県として引き続き上申すると昨年度の方針に基づき三種町を上申することとした。
 - 二 平成十九年度秋田県消防協会定例表彰は、現在取りまとめ中であるが、上申をチェックして表彰者とする。また、五月の代議員会で提案のあった二十五年以上の功労章の復活については、平成十七年一月の役員会で廃止した経緯等を考慮し、表彰しないことを決定した。
 - 三 本年度からの会費がまだ四箇所未納であるが、年内には納入見込みであること了を承した。
 - 四 殉職消防組員招魂碑が老朽化で傷みが激しいため、業者へ調査を依頼することとした。
 - 五 平成二十年年度の第六十回秋田県消防大会を平成二十年七月四日(金)十三時から秋田市の秋田市文化会館で行うことを決定した。
- 報告事項では、平成十九年度消防車両の交付上申について、わがまちの消防団活性化支援事業検討会議の発足について、新潟県中越沖地震への見舞贈呈について等計八件が報告された。

県からのお知らせ

秋田県婦人防火研修会の開催について

婦人防火クラブの育成、火災防火思想の啓発普及などを目的とした「平成十九年度秋田県婦人防火研修会」を次により開催します。本年度は、婦人防火クラブ員によるパネルディスカッションなどを予定しております。多くの皆様の来場を心からお待ちしております。

日 時 平成十九年十月二十五日(木)
午後一時

場 所 秋田市山王 秋田県庁
第二庁舎 八階大会議室

参加費 無料(申込み不要)

問い合わせ先

秋田県総合防災課消防班
電話 〇一八(八六〇)四五六六

地域の防災、災害対策に貢献!



猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651